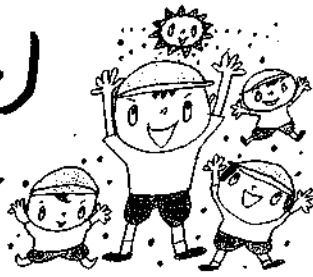


ゆりかご 園だより

2019.9.2

2期(6~9月)のねらい
からだづくり活動を通して
子ども関係の質を高めよう



保育園にはこの夏も、多くの方があそびに来てくれました。在園中、夏休みや冬休みに“お手伝い”に来てくれた先輩の姿に、憧れを感じ「よし、小学生になったら今度は私が」と少々

緊張しながらも来てくれた新一年生。道外に転居し、家族と共に顔を出し、在園児と一緒にあそんでくれたり、折り紙の折り方を教えてくれたり、卒園後初めて園内を訪れ「天井、こんなに低かった、け、ここに手洗い場があったよね」と懐かしがる青年も。

中には「札幌に戻ってきたんですよ」と30年ぶりに顔をだしてくれた方もいました。「OO先生、てまだいますか？△△先生は？」と尋ねられ、まだ在職していることを伝えると、驚きながらも「あの時は大変だ、たけれど楽しかった。当時の思い出を懐かしく共有できるゆりかごは、やっぱりいいですね。子育て真っ最中の父母たちの良き理解者となり支えてください、ね」とおっしゃっていました。

いえいえ、保育者としての力量もなく未熟だった私たちが、これまで続けてこれたのは、父母の方々に支えていただいていたからです。そして、子どもたちの笑顔に元気をもらっていたのです。

サービスを受ける側、提供する側といったとらえ方では決して成立しない保護者と保育者の関係。卒園してからも“園に行ってみよう”と思ってもらえる要因の一つは、顔見知りの職員がいるからではないでしょうか。

子ども・子育て支援新制度が制定され、今年で5年目になります。この間どんどん規制緩和がすすみ子どもたちの未来が危うくなってきています。『保育園をよくする会』では学習会や街頭署名を企画しています。保育制度を知る機会にもなります。今在園している子どもたちが健やかに成長し、「あそびに行こう、先生に会いに行こう」と思ってもらえるよう、児童福祉法24条第1項に基づく“保育園”をこれからも守っていきたいと思います。